

【開会 午後1時30分】

- 1 開 会
- 2 出席委員の報告
- 3 競輪事業部長挨拶

○伊与部部長 皆様，こんにちは。

函館市競輪事業部長の伊与部でございます。

函館市競輪運営協議会の開催にあたりまして，一言，ご挨拶を申し上げます。

本日，委員の皆様におかれましては，大変お忙しい中，ご出席をいただきまして，誠にありがとうございます。

また，日頃より，市営函館競輪の運営にご理解とご協力を賜りまして，心より感謝を申し上げます。

さて，今現在も全国的に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっている状況でございますが，令和2年は，競輪界におきましても，2月からの全国の売場における車券発売の中止に始まり，全国的にも開催中止や無観客での開催が行われるなど，多大な影響のあった1年であったと感じております。

市営函館競輪におきましても，緊急事態宣言の発令等を受けまして，4月，5月，開設70周年の函館記念競輪も含めて，計6開催19日間をやむを得ず中止といたしました。

その後は，ガイドラインに沿いまして，新型コロナウイルス感染防止対策を万全に講じながら，無観客での実施，そしてさらには入場制限や参加選手の削減による7車立て9レースなど，競技内容の変更をかけながら実施してまいりまして，開催関係者の皆様のご協力のもとで，特に大きなトラブルが発生することもなく，無事に令和2年10月21日をもって，今年度の開催を終了することができました。

売上につきましては，開催中止の影響もございまして，約120億円という売上結果となりまして，対予算比では約48億円の減額となった

ところでございます。

また、6月の開催再開後におきましては、全国競輪場における函館競輪に対する売上協力も得ながら、インターネット投票での増加等も想定以上にあり、約20億円の売上を挽回することができました。

令和3年度からは、既に皆様にお伝えしておりますとおり、次期函館競輪の包括受託者が、現在の日本トーター株式会社からトータリゼータエンジニアリング株式会社に変更となることが決定したところでございます。

受託者の変更によって、現在、函館競輪場では日本トーター株式会社が導入しているe-スマートカードという電子マネー、キャッシュレスでの投票を主体としておりますが、今後は現金端末機での現金投票に変更となり、e-スマートカードでの投票が終了するということとなります。

手続等につきましては、ファンの皆様にご迷惑をかけないように、スムーズに対応してまいりますし、また次期包括受託者からは今回新たに、地元ファンの掘り起こしのための、新たな様々な提案がなされているところでございますので、これらにつきましては、積極的に有効性を検討の上、随時実施を進めてまいりたい、そして更なるファンサービスの向上に努めてまいりたいと考えているところでございます。

令和3年度は6年ぶりに特別競輪のGⅡナイター、いわゆる「サマーナイトフェスティバル」といいますけれども、この開催が行われるなど、市内はもとより、全国からも、函館競輪場に、より多くのお客様が来場していただける、活気に満ち、チャンス溢れる年になるだろうと考えております。

政府は、今月17日より、医療従事者から、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を始めたところでございます。

一刻も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願うとともに、引き続き万全な感染防止対策を実施のうえ、関係者および次期包括受託者と連携を取り、安全な開催を心掛けまして、令和3年度が函館競輪にとって

素晴らしい1年になるよう、邁進してまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解・ご協力をお願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は、限られた時間ではございますけれども、よろしくどうぞお願い申し上げます。

4 議題

(1) 協議事項

○事業部 函館市自転車競走条例施行規則第5条の規定により、会長が進行を務めることとなっているが、令和2年9月30日で会長、副会長の任期が満了しており、その後初めての開催であるため、会長、副会長が空席となっている。

会長が決まるまでの間、本日の出席委員中、年長の穴田委員に臨時の座長をお願いしたいが、よろしいか。

(各委員：異議なし)

①函館市競輪運営協議会の会長および副会長の選出について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき米谷事業課長から説明)

○米谷事業課長 函館市自転車競走条例施行規則第4条第2項に規定により、会長および副会長は委員の互選となっている。

○穴田委員 これより会長の互選を行うが、指名推薦の方法をとり、指名については、私が指名したいと思うが、異議はあるか。

(各委員：異議なし)

異議がないので、会長には今井委員にお願いしたいと思う。異議はあるか。

(各委員：異議なし)

○今井会長 続いて、副会長の互選となるが、これについても指名推薦とし、私が指名したいと思うが、異議はあるか。

(各委員：異議なし)

千葉委員にお願いしたいと思う。異議はあるか。

(各委員：異議なし)

(2)報告事項

①令和2年度自転車競走事業特別会計補正予算(案)について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき米谷事業課長から説明)

○今井会長 私から1点伺いたい。歳出の予備費で、補正後予算額が“0”とあるが、これは支出しなかったということで良いか。

○米谷事業課長 お見込みのとおり。

○三浦委員 資料の中で、平成13年は何故売上が上がっているのか。

○米谷事業課長 GIIグレードの特別競輪である「ふるさとダービー」を開催したことにより、売上が伸びたものである。

②令和3年度函館競輪上期開催日程（案）について

（資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき米谷事業課長から説明）

○伊与部部長 補足説明だが、今の説明のとおり、新年度からは一度に売れる場数が多くなる。1日4つ記載しているところがあるが、例えば、4月19日、広島、和歌山、別府、松山の4場を函館競輪場で売るということになる。F I、F II、ガールズ等の記載は競技の種類である。

一度に4場を発売できるということは、全国的な売上に一層貢献でき、函館の競輪ファンの皆様方も、ここで様々な競輪場の車券を購入でき、レース映像を見ることができるといふことである。

○今井会長 ガールズ競輪が多く見受けられるが、女性の選手は増えているのか。

○伊与部部長 全国的にガールズ競輪、女性のプロの競輪選手は増えてきている状況である。

また、業界の方でも、ガールズ競輪をどんどんこれから増やしていくと、こういう気概であり、函館もガールズ競輪の選手は2名いる。全国的には150名程度と思うが、活躍しており、ファンも多く盛り上がっている状況である。

○穴田委員 今回から新しい事業者、日本トーターからトータリゼータエンジニアリングに変わるが、業者選定における決め手は何だったのか。

○伊与部部長 今回、プロポーザルをした結果2社から参加申し込みがあった。2社からの提案を受けて、審査委員会の委員の方々が評価し、決まったものである。点数にはそれほど差がなかった。そういう意味では、お互いに実力も同じくらいなのかなという風に我々は思っている。

我々、市の職員は審査委員には当然なっていない。審査の結果を見て、総合的に新しい施策を含む様々な部分が評価されたとも考えているし、やはり競輪は収益事業なので、函館市として事業を展開し、そこで得た収益を一般会計、函館市の財源に貢献していく必要があるという状況の中、収益保証額についても、一定の評価がされたのではないかと考えている。

○穴田委員 日本トーターとトータリゼータエンジニアリング、同じような名前だが、関連性はないのか。

○伊与部部長 全く別の会社である。

○穴田委員 日本トーターの今までの機械は、現金での車券発売ではなく、カードを使ったシステムが主体であった。日本トーターは現在のカードのシステムの機械を入れていたと思うが、トータリゼータエンジニアリングという会社はそういう機械を作っているメーカーなのか。

○伊与部部長 令和3年度についての予算説明でもご説明申し上げるが、先に質問が出たのでお答えする。

まず、名前は似ているが異なる会社である。私も冒頭のご挨拶で申し上げたが、e-スマートという電子マネー投票機を今の事業者(日本トーター)は使っており、次の事業者(トータリゼータエンジニアリング)はすべて現金端末機にするという提案である。

それは何故かというところ、函館競輪場に関する市場調査等で、売上を伸ばすためには現金での購入を促していくべきという結果が出たからだと聞いている。

また、当然ながら現在使っている機械は日本トーターの機械であるが、4月からはトータリゼータエンジニアリングの機械に全部切り替えることになる。

○今井会長 私も審査委員会に出たが、機械的なことは次の事業者（トータリゼータエンジニアリング）の提案の方が新しかったという印象がある。点数的には本当に少しの差だった。

○穴田委員 決め手は収益保証額だったのではないか。現在の日本トーターは、もし函館競輪の収益が少なければ、2億保証する。

次の事業者（トータリゼータエンジニアリング）は2億5千万の保証だと聞いているが、そのことが決め手なのではないか。

○今井会長 収益保証額の差の他に、委託料率についても売上の0.何%の差があった。

○伊与部部長 細かい話になってきているが、決め手は何かということは、難しい。これは公表していることだが、各委員は多くの評価項目について点数をつけていく。これらの評価項目の中では、今申し上げた、収益保証額が評価される部分もあるし、事業形態がどうかということや、ファンサービスのために何をするかなど、様々な項目に配点されており、そういった中で現在やっているところの利点もあるし、悪い点もある、新しいところの良いところ、悪いところなど、これらを総合的に判断された中で、最終的な評価となったものである。

○穴田委員 委員の方々、会長、副会長が審査委員だったということだが。

○今井会長 本当に何項目も点数をつける。出して事業部の方で集計して点数を公表する。

○穴田委員 私のところに2点差だったという資料が来たので知っている。今言いたかったのは、事業者が変わったのはいいことだと思っている。今

までは車券をカードで買い、カードで払戻を受けるシステムであった。次の事業者（トータリゼータエンジニアリング）は、現金でやり取りができると聞いていて、原点に戻ったと思う。元々、そういうすべての公営ギャンブルを含めて、そういうことだったのが、たまたま日本トーターが入れた機械が、カードを使って車券を購入するというやり方なので、これはどうかと私自身思っていた。

ギャンブルをやっている人は、現金を入れて現金で払われることが、それがまた購入に繋がるだろうと私は自分自身で競馬を買っていてそう思う。日本トーターの機械は ATM でカードに入金して車券購入を行う方式なので、売上があんまり伸びないだろうと思っていたが、今度は逆に伸びるのではと期待をしているところである。

○今井会長 先ほど部長が言われた通り、市場調査をして、函館市だとやはり現金の売上を増やさないとダメなのではないか、機械の方は、スマホを活用したすごい若者向けの提案をされていたというのは印象に残っている。

○伊与部部長 今、会長からおっしゃっていただいたが、確かに今穴田委員がおっしゃったとおり、昔々競輪が始まった頃は電子マネーというものはなかった。すべて現金でやっていた。どうしても函館競輪場に来場していただけるお客様は、若い方よりはご年配の方が多いという中で、おっしゃるとおり、使いづらいなどのご意見をいただいていたという側面もある。

また、平成 22 年頃から函館で始め、10 年間くらい、全国的な e スマートの広がりを見ていたが、実際にはあまり広がっていない。そういう意味では、なかなか e-スマートは手軽ではないという見方もできる。

ただ、こういう今の情勢なので、キャッシュレスの推進という社会的な情勢の中、様々な選択肢を比較して何がベストで、e-スマートにこだわらず、どういうものがあるのかという、今後、すべて現金でやるというもの

選択肢の1つだが、従来のユーザーに対してもどうなのかということも考慮しながら、新しい包括受託者（トータリゼータエンジニアリング）とも相談していきたいと考えているし、先ほど事業部から説明があったとおり、やはり来場して買うというよりもインターネットの売上がどんどん伸びているという時代背景もあるので、そういうところもおろそかにはできない。

しかしながら、やはり函館の競輪場にお客様が来てくれるために努力も必要だと、このことを考えながら対応してまいりたい。

③令和3年度自転車競走事業特別会計予算（案）について

（資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき米谷事業課長から説明）

○三浦委員 車券発売代金というのは、函館競輪場でレースをやったものに対する車券を買ってくれた収益、他の競輪場で買ったものも全部含める、インターネットを通じて買ったものも含まれるのか。

○米谷事業課長 お見込みのとおり。市営函館競輪で開催したもの、函館競輪場、また、例えばサテライト松風、サテライト札幌、もし九州の小倉競輪場で函館競輪の車券を売ってくれた場合はそれを含めて、さらに、インターネットの発売もすべて含めた売上である。

○三浦委員 棒グラフに出てきて、増えてきているという電話投票の中にはインターネット投票は入っているのか。

○米谷事業課長 お見込みのとおり。電話投票の中にもインターネット投票は含まれている。

○三浦委員 先ほどの推移で、突出した平成5年、平成13年はだいたい横

ばいの中で、200億円、300億円できているが、だいたい他の競輪場でも同じ傾向なのか。どこか突出して売上が全国の中で調子いいということなのか。

- 伊与部部長 特別競輪の開催の有無のほか、全国的に規模、環境が異なる部分はある。ドームでやっているところ、気候の影響のないところ、地元選手がたくさんいるところ、昔から競輪の文化が根付いている発祥の地だとか、そういったところで差が出るという部分もある。

また、函館競輪場で開催するときにもネームバリューのある選手が出るか、全国的に有名な選手だとか北海道で有名な選手だとか、その組み合わせだとか、売上は様々な要因に影響される。

車券を買うお客様も、今日は函館と例えば九州のどこかが一緒に開催していると、九州の方が私はいいなとか、私は函館とか個人個人で分かれる。

そういった状況の中で函館競輪をいかに全国的にPRしていくかが重要だと考えている。

- 今井会長 競輪場ごとの売上状況とか、以前は報告されていたこともあるが、また、そういう資料を出すことはできるのか。

- 伊与部部長 今手元にはないが、後ほど皆様に、直近の全国競輪場の売上状況がわかる資料を配布させていただく。

- 大門委員 9ページの歳入の中で、令和3年度は222億円という数字が出ているが、備考欄には売上については過去の実績等を勘案して見込んだとある。

13ページの資料では平成30年度から令和3年度の当初予算の推移がわかるような資料がついているが、令和3年度の222億円の部分、13ページで行くと、特別競輪で行くと44億円、記念競輪で行くと48億

円、普通開催130億円をはじきだしていると、この過去の実績はどこの年度のどの実績を勘案しているのか。

○米谷事業課長 GⅢグレードの記念競輪は毎年度開催していることから、過去の記念競輪の実績、また、FⅠ、FⅡの普通開催についても毎年開催しており、こちらは今年度も開催しているので今年度の実績を勘案している。GⅡグレードのサマーナイトフェスティバル、こちらについては6年ぶりの開催なので、過去5年間の他の競輪場で開催した売上額を勘案し、市営函館競輪では44億の予算を計上したところである。

○大門委員 その説明ではよくわからない。

○今井会長 他の競輪場で40億円くらいだから今年は人気が出るからもうちょっと見込めるとか。

○伊与部部長 ちょっと砕いた説明となるが、今回のサマーナイトフェスティバルGⅡは資料の9ページで新たに特別競輪として追加している。

44億は、サマーナイトフェスティバルが過去に開催された競輪場での売上や、函館で以前開催した際の売上、あるいは今現在の競輪業界での特別競輪の売上動向など、様々な要因を考慮した中での積算である。

一方、この次の函館競輪開設71周年記念のGⅢ48億円は、函館で開催した過去数年の実績、さらには全国で行われる各競輪場の実績、これは高いところもあれば低いところもあるのだが、そういった傾向などを勘案しながら積算している。

また、普通競輪としてFⅠ、FⅡナイター、FⅡミッドナイトで130億円を見込んでいるが、右の令和2年度予算では98億円になっている。

令和3年度は全体で61日間開催され、令和2年度の59日開催と比べ、日数が多くなっているが、売上の差は日数が増えたことによるものだけで

はなく、ミッドナイトをはじめとした普通競輪の売上が上がってきているという全国、函館の実績によるものである。

令和2年度予算の売上は168億、令和3年度予算から44億円のサマーナイトフェスティバルを除くと178億円となるので、10億の差となるが、これがどこに来ているかというとミッドナイト、FII、FIナイターが当初見込んでいたよりも実績が全国的に上がっており、同様に函館も上がっている。そういったところなどを考慮し、このような積算となっている。

○今井会長 詳しい説明をすることでわかりにくくなる面もある。

○穴田委員 今の説明は、ミッドナイトや函館記念競輪というのは、毎年やっているということ。サマーナイトフェスティバルは、5年に1回くらい当たるのか。

○伊与部部長 いや、当たらないです。

○穴田委員 当たらない。そのくらい間隔をおかないと特別競輪はできない。GIIやGIは売上がいいので、函館だけでなく、他の競輪場もみんな応募している。全国競輪施行者協議会というところにだが。

そして、様々な面で努力して、努力して、努力してそれでも当たるか当たらないかというものである。当たったところは売上が上がる。だから、毎年これを開催できるものではないということは理解していただきたい。

○大門委員 今回、売上が222億円を見込んでおり、内訳など、備考欄に参考の記載がなされているが、例えばサマーナイトフェスティバルという部分で行けば、突発的に開催できるかどうかといったものであって、それで全国的な部分なり、44億円見込めるという計上をしたということは今

の話でわかった。

しかし、これが、例年そんなに見込めないものであるか否か、我々も素人なので、この資料からはわからない。備考欄にそういったことを書いた方がいいのではないかと思う。そして普通競輪についても、今部長が発言したように、ナイター、ミッドナイト、そういった部分での収益が見込める部分が相当数あると。だから、前年の168億より、この部分の収入が見込めるという内容になっているのかという確認をしたかった。

○伊与部部長 確かにおっしゃる通りで、特別なものとわかるように書いたほうがよかった。このような資料を出す際には、こうなった主な理由を書くことで、よりわかりやすくなるので、いただいたご意見を踏まえ、今後そのようにさせていただきたい。

(3) その他

○米谷事業課長 次回の運営協議会開催日程は、令和3年8月下旬を予定している。日程の詳細が決定後、別途ご案内させていただきたい。

○今井会長 次回は8月下旬ということをお願いする。

=以上をもって終了=